

異文化体験を通じて開かれた地域へ

■文化交流プラザ福住

福住地区の街づくり団体「文化交流プラザ福住」は、平成九年の発足時から、「異年齢・異文化交流」を合言葉に活動を続けています。

「日常ではなかなか味わえない体験を通じて学ぶことで、地域を活性化させ、地域の教育力を高めることを目指しています」と話すのは、事務局次長の三坂桂子さんです。

文化交流プラザ福住では、地域で異文化体験をする試みとして、さまざまな活動を行っています。主なものとしては、札幌



福住連合まつりにて、JICA研修員にお茶のお手前

国際プラザや北方圏センターなどの協力による、JICA（国際協力事業団）研修員の地域行事への参加や、ホームステイの受け入れがあります。

そのほか、福住小学校と協力して、ホームステイをしている学生たちを学校に招いたり、アメリカのオレゴン州ユージン市で日本語を教えている学校の「友人学園」と友好を深め、親子で相互に訪問したりするなど、幅広い活動を展開しています。

また、地域でホームステイにかかわり、今後も継続的に体験したいという人たちが増えてきたことを受けて、一昨年には、「福住ホームステイネットワーク」を組織しました。現在では、三十四家庭が登録しています。

同団体では、異文化交流を行う際、その体験を周囲の人と共有することを心掛けています。例えばホームステイの場合、興味はあるが、家が狭くて泊められないという人がいれば、受け入れた家庭が、その人たちに「一緒に食事をしませんか」などと声をかけます。そうすることで、多くの人が異なる文化に出会うことができるのです。

多様な価値観の育つ地域に

札幌ドームの誕生により、世界との接点がさらに増えた福住地区。同団体の活動と相まって、多様な価値観を持つ地域へと、少しずつ変化を遂げています。三坂さんは、これまでの活動の経験から、次のように話してくれました。

「異文化体験は、多様な価値観を受け入れる素地を作るための手段に過ぎません。体験をした人は、そこで学んだ価値観がさまざまな分野で生かせることに気付きます。その人たちが発信源になれば、地域はもっと開かれたものになっていくと思います」。

◆ ◆ ◆
今回紹介した団体のほかにも、区内には国際交流を進めている人たちがいます。

◆ ◆ ◆
国際交流は、異文化に対する理解と共感を生み、地域や自分自身を見詰め直すきっかけとなります。多様な文化との交流を街づくりに生かすことが、地域に活力を与え、創造性豊かな地域社会の発展へとつながっていくのではないのでしょうか。

札幌天神山国際ハウス SAPPORO GUEST HOUSE



春になると美しい桜に囲まれる国際ハウス



ファールベック氏の講演会の様子

札幌天神山国際ハウスは、学術・文化交流などの目的で国内外から来訪する方々が、落ち着いた環境の中で滞在できる宿泊施設です。宿泊者と市民が交流できるサロンのほか、会議室、和室などの貸室もあります。

施設内では、宿泊者が母国の文化やそれぞれの専門分野の研究成果などを市民に紹介する宿泊者講演会を開催。このほか、地域のボランティアの皆さんの協力による宿泊者向け日本文化体験、グリーティングカード展などの各種展示会を実施しています。

天神山国際ハウスから区民の皆様へ

宿泊者講演会では、毎回興味深いテーマが披露されています。例えば、昨年に行われたスウェーデン・ルンド大学のファールベック教授の講演会は、シェークスピアやオスカーワイルドなどの著名な英国文学の中から生まれた格言について、さまざまな角度から考察するという内容でした。英国文学に興味のある市民の方がたくさん訪れ、活発な議論が交わされました。

このような講演会をはじめ、各種催しを実施する際は、広報さっぽろ全市版のお知らせに掲載します。ご確認の上、多くの方にご来館していただけますようお願いしています。

（詳細）札幌天神山国際ハウス（平岸2条7丁目） ☎823-1000 <http://www.plaza-sapporo.or.jp/sgh/>